**令和６年度第１回すみだタウンミーティング　実施報告書**

* テーマ

みんなの“夢”をストックしよう！～総合的芸術祭に向けて～

* 実施日時・会場

令和6年8月23日（金）　午後6時30分～8時30分

すみだリバーサイドホール 2階 イベントホール（墨田区役所併設）

* 対象者

墨田区在住・在勤・在学者

* 参加人数

出席者39人、見学者5人、オンライン視聴者9人

* 当日実施概要（内容の詳細は議事録を参照）

（１）ゲストトーク

　　　①ファシリテーター神野真吾氏

　　　　「芸術祭が求められるわけ」

②ファシリテーター青木彬氏

　「墨田区らしい芸術祭とは？」

（２）グループワーク

　　　①「アート」という言葉で連想ゲームをしよう！

　　　②墨田区で経験した嬉しかったこと

　　　③アートを通じて墨田区で叶えたい夢を語ろう！

（３）発表・区長コメント

（４）区長総括

■　各班の発表内容（※一部抜粋。詳細は議事録を参照）

　①「アート」という言葉で連想ゲームをしよう！

　②墨田区で経験した嬉しかったこと

　　グループワーク①②について、G班が代表して発表した。

　　・「アート」という言葉から連想するのは、「モーツァルト」、「北斎」等の単語が挙げられた一方で、「変わっている」、「違和感」といった予定調和がないというイメージ。その他に、マイノリティの視点、アイデンティティ、社会へのメッセージということが挙げられた。

　　・墨田区で経験した嬉しかったこととして、もつ焼き、もつ煮等の個性的なお店や大相撲、隅田川、花火大会、古民家、街歩きなど割と身近なところが大変良い。また、スカイツリー、国技館、新日フィルという日本中でここにしかないというものが挙げられた。祭り囃子、盆踊りというものが非常に墨田らしいというイメージがある。

　③アートを通じて墨田区で叶えたい夢を語ろう！

|  |
| --- |
| **A班　まちの資源を体験できる場にしたい** |
| ・まちの映画館を作る、お祭りの体験など、まちの資源を活用して体験の場にしたい。  ・子どもも参加できるようにすることが重要である。  ・様々なことにチャレンジし、生活に近いまちの中でとりあえず何かやってみるということをアートのフィールドでやりたい。 |

|  |
| --- |
| **B班　アート心を引き出す仕組みがほしい** |
| ・まちを舞台にして、まちの人が参加できるような芸術祭にできたらいい。  ・芸術祭の開催期間中は、大人も長期休暇となるよう区で定めて参加を促したり、区内全域をスマホ禁止エリアにしたり、人と人が交わるような仕掛けを作る。  ・アイデアを引き出してもらうような芸術祭になったら、新しいものができる。 |

|  |
| --- |
| **C班　持続可能性のある芸術祭にしたい！** |
| ・隅田公園、スカイツリー内をジャックするような形、外国人の方も含め、一部の人間だけではなくまち中の人間が参加できて、来年もやりたいなという持続可能性があるようなことをやっていきたい。 |

|  |
| --- |
| **D班　墨田区をアートのまちにしたい！** |
| ・地域にアートが根付く環境を作っていく取組を実施したい。  ・まちに芸術が根付いて、芸術家やクリエイターがたくさん集まるような、そんな芸術祭にしたい。  ・まち自体がアートになっていく、芸術祭が終わっても墨田区をアートのまちにするようなイメージを持ち、また目的としてやってほしい。 |

|  |
| --- |
| **E班　新しい価値観の発見を促したい！** |
| ・墨田区の良さとは、産業としてのものづくりや、文化芸術が身近にあり、生活と地続きになっている点にある。基礎ができているので、これをアートまたは芸術祭で可視化するとか、もしくは強化するということができたら、すごくいい。  ・あ、そんな価値観あるんだ、知らなかったとか、こんな世界を見られるんだ、知らなかったとか、そんな気づきが生まれたら素晴らしい。 |

|  |
| --- |
| **F班　人と人とのつながりを広げたい！** |
| ・路地や下町の魅力を生かして、展示やアートの発表の場を内よりも外に持っていきたい。  ・心地よいおせっかい、笑顔、人に声を掛けられる地場、そのような良い点を、アート活動を通じて広げていきたい。 |

|  |
| --- |
| **G班　地域課題の解決と区のPRを両立したい！** |
| ・子どもや若者がわくわくするようなきっかけになったらいい。  ・人と人とのつながりやふれあいと、歴史といった魅力を再発見し、新たな形で未来へとつないでいけたらいい。 |

|  |
| --- |
| **H班　公共空間を活用したい！** |
| ・公民館等の公共施設など、今あるものを活用して、コミュニケーションが生まれるきっかけを作り、それぞれ個人が表現できることが大切である。  ・路地園芸なども公共空間を活用した地域資源である。 |

* 添付資料

１　アンケート集計結果

２　議事録

